

況は現代と全く異なりま
す。教習も自社施設内で行
うのではなく、隣のビルの倉
庫を借り行ったこともあった
そうです。冬でも暖房がな
く、石焼き芋屋さんを通ると
買いに走り、みんなで食べた
そうです。環境は良くなかつ
たけれど、家族的な会社の雰
囲気がとてもいい思い出そ
うです。東京の風景を聞いて

驚いたことがあります。昭和
32年の東京にはまだ焼け跡
があったのではないかと私は
思っていました、その時には
都心ではもう無かったそう
です。ただ空地は多くあり、

東京の空は広がったという、
心象風景が思い浮かびま
す。前年の経済白書に「もは
や戦後ではない」と記された
のも成る程と思ふとともに、
日本人のバイタリティーを感
じずにはいられません。ここ
30年ずつと元気の無い日本
に、先輩たちに喝!!を入れて
いただきたい心境です。

S 32年・33年入社の方
には忘れられない景色があ
るそうです。それは日々工事
が進み高くなっていく東京タ

ワー!!毎日高くなるタワー
を仰ぎ見ながら、教習を、そ
して乗務に臨みながら、私も
明日はもつと高みを目指す
と誓ったそうです。(うー良
い話だなー!!正に三丁目の
夕日)

その頃はまだまだ、車も少
なく道もすいていたのでしょ
う、半日コース3.5日を下町か
ら山の手まで回れたそう
です。それを一日3回転(日が
短くなると明治神宮は暗く
なるので逆回り)して、更に
夜コースをセットさせたとの
こと。先輩たち「苦労様でし
た!!

また二台口の宿泊業務には
必ずガイドさんを二名乗せ
たそうです。先輩も後輩も
互いに勉強となりますし、大
事な娘さんをお預かりして
いるという、会社の誠意が感
じられますね。

S 38年・43年入社の方の時
代になると、オリンピック・大
阪万博という国家的行事を
控え高速道路も延伸し、ガ
イドさんのエリアも急速に広
がり、京都・奈良を観光し大
阪万博送り込み終了という

仕事も増え、強行軍の観光
でお客さまもガイドもくた
くたになり、たくさん万博の
入場券を貰ったが、とつても
行く気力が無かったそう
です。都市部の道路は整備が
進みましたが、まだまだ地方
のインフラは整備されず、今
では勿論考えられませんが、
狭い道のバスのすれ違いには、
後輪の外側タイヤが崖側に
はみ出すようにバック誘導し
たり、いろは坂ではガイド席
が道からはみ出して崖を見
ながら、説明を続けたことも
良い(いやゾツとする)思い出
との事です。

チーム品川の皆さんの時代
はまさに、戦後の復興から日
本の最盛期へ。

明日という日は、明るい日
と書くのねーと唄いながらみ
んなで突き進みつつも、ほとバ
スには、アットホームな雰囲気
が多く感じられた時代だつ
たと思います。

Bグループ(チーム平和
島)の皆さんのインタビューを
まとめました。
入社動機はチームAの皆



▲チーム平和島 向って右から 岩下さん、牧さん、
工藤さん、森内さん、宮嶋さん

さんと同じですが加えて、東
京に対する強い憧れがあった
ようです。時代背景を見て
みると、S 54年(1979
年)は、日本の高度成長から
オイルショックを経て、来年か
ら始まる80年代を目前に控
えた、バブル期の足音が聞こ
えてきそうな時代です。世

を挙げてマスコミは東京の魅
力を流し続けます。地方在
住の若者には、東京への憧れ
が掻き立てられるのは、当然
のことでしょう。ほとバスは、
S 50年代当初は全くガイド
採用が出来ず、苦しんでいま
した。東京在住で自宅から
通勤が採用条件、などという
のはもう遠い過去の話とな

り、北海道から石垣島まで
採用出張に行ったものです。
(楽しかったな)今回座談
会出席のチームBの皆さんも
出身は、千葉、岩手がお一人づ
つ、北海道が三名です。そう
した状況ですから、志望動
機もなんとしても東京に行っ
てみたい、試験に落ちてもし
いから受験で東京に行けれ
ば嬉しいというものから、な
んとしても郷ひろみと結婚
をするんだ!!それには東京
にいかなくちゃ、という強者
もいたようです。入社試験も
この時代は、清美寮に泊まっ
て受験となっており、入社前
から、皆さんとても親しく
なったそうです。前述した通
り、この年のチームB(C班)

は教習に特色があります。
他の班のガイドさんとは異な
り、日光から教習をはじめ初
乗務も、日光方面への修学旅
行でした。こうした変則のエ
リア教習をした訳は、当時中
学の修学旅行は日光を訪れ
るパターンが多く、まして生
徒数も多かったので台数口が
多く、日光を説明できるガイ
ドを増やしたかった事があ

ります。後の時代を述べる
と、デイズニーランドがS 58年
(1983年)に開園してか
らは、デイズニーでたっぷり時
間をとる行程が増え、今では
修旅といつても自由研修が増
え、バスを使うのはデイズニー
の送迎のみ(それもガイドな
しの送迎バス)というパター
ンも多くなっています。修旅と
いえば三日間みっちりバスに
乗り、最終日にはガイドさん
が、ホームまで見送りに来て
涙のお別れが、生徒さんの思
い出となり、ガイドさんの励
みになると、私は思うのです
が。。

さて、話は戻りますがそん
な日光班(わたしたちダメダ
メ日光班と呼ばれてました
)と、座談会参加の方は自
虐ネタを言いますが、同期の
他の班の方より、入社当時から
貸切の仕事が多く、他社の
乗務員さんと接する機会も
多かったわけですから、他社
乗務員の方や利用施設の方
から、ほとバスの評価を、入社
初期から感じたグループだつ
たと思います。どこへ行って
も、ほとバスが来たら、それに